

オガイ *Cantharus cecillei* (Philippi)

【選定理由】

本種は内湾から湾口部にかけての潮下帯砂礫底にすむ。県内では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種は 1960 年代には比較的普通種であった(愛知県科学教育センター, 1967)が、近年死殻さえほとんど採集できない(木村, 1996; 木村, 2000)。その後の調査でも死殻さえ採集されていない。絶滅の可能性が非常に高い種であると評価された。



南知多町日間賀島南沖水深 5m(底刺網), 1994 年 7 月 5 日, 木村昭一採集(死殻)

【形態】

殻長約 40 mm の太い紡錘型の貝で、殻は厚く縦肋が強く、生時には、殻表は緑褐色の殻皮で覆われる。蓋は革質で厚く、殻口の大部分をふさぐ。図示標本は死殻なので殻皮、蓋が残されていない。

【分布の概要】

【県内の分布】

県内の潮下帯で近年全く生貝が採集されない。1994 年以後死殻さえ確認されていない。危機的生息状況である。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、台湾(木村, 未発表資料)に分布し、国内では房総半島・富山湾から九州に分布する(山下・木村, 2012)。近年、瀬戸内海中部から著しい個体群の回復状況が報告されている(増田, 2017; 木村・木村, 2019)。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような生息環境の悪化のほか、本種についてはバイ(堀口, 1998)のように有機スズ化合物による雌の雄化により個体数が減少した可能性もある。近年死殻も採集されておらず、危機的な生息状況である。絶滅した可能性も高い。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物. 222pp.

堀口敏広, 1998. インボセックス 巻貝類における雌の雄化現象. 海洋と生物, 117: 283-288.

木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.

木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, (26): 18-20. 名古屋貝類談話会.

木村昭一・木村妙子, 2019. 粟島港東側周辺で採集された貝類. まいご, (26): 4-10. 四国貝類談話会.

増田 修, 2017. 姫路市家島諸島周辺(播磨灘北部)で採集されたオガイ. かいなかま, 51(1): 25-28.

(木村昭一)